

## ◆がん治療に対する鍼灸治療の考え方◆

●がんに対する鍼灸治療で大切にしていることは、自分で治る力（からだの自然治癒力）を高めたり、からだの細胞を修復したり、心とからだのストレスを緩和させたりすることでからだの機能を戻すことを考えて鍼灸治療を行なっています。がんの治療（手術、抗がん剤、放射線療法）によるからだの痛みやしびれにも対応した鍼灸治療をおこなっています。

●人間のからだの中では、毎日ガン細胞が生まれています。からだの中にガン細胞が存在しない人はいません。ガン細胞があってもほとんどの人はガンにならず、健康でいられるのは、からだの免疫機能である免疫細胞（NK細胞）が、ガンを発見して排除しているからです。感染症を治すのと同様に、ガンを治すには何より免疫力をあげることが必要です。ガンと闘うNK細胞を増やすことです。NK細胞の免疫力こそガンと戦う自然治癒力なのです。NK細胞の攻撃力は人間の感情や気分によって左右される細胞です。ですから、心が弱くなればNK細胞も弱くなり、心が強くなればNK細胞も強くなります。

## ◆鍼灸治療と免疫機能について考えられていること◆

からだを守るために恒常的に働く防御系として免疫は存在しています。鍼灸治療による免疫系の調節は、免疫系の組織（細胞）・器官を調節することが考えられています。

鍼灸刺激は以下のように作用していると考えられています。

- ・細胞に働いて免疫細胞の産生・誘導したり、防御系の活性を高めたりしています。
- ・生体防御系反応の調節は免疫細胞を介して行われています。
- ・ストレスによる免疫抑制の防止効果をおこなったりしています。
- ・内分泌系を調節することによって免疫系細胞の調節を行っています。
- ・血液中のT細胞やNK細胞数などの免疫細胞が増え生体内の免疫機能を高めたりします。
- ・自律神経を介してリンパ系器官に働いて免疫機能へ影響を与えています。

## ◆がん細胞は正常細胞に戻るという研究◆

『がんの新しい理解につながる実験 ミナ・ビッセル』ローレンスバークレー国立研究所  
概要抜粋 Mina の推測。

- ・正常な細胞でも細胞の周りの微小な環境によって細胞の機能が左右される。
- ・がん遺伝子があるがん細胞は必ずしも異常増殖をして腫瘍になる訳ではない。
- ・がん細胞はどれもが腫瘍になるのではなく 周囲の環境（微小環境）の送る信号によって腫瘍化が左右される。
- ・「種種の実験の結果から、がんの遺伝子を持つだけではがん化はせず、その細胞を取り巻く微小な環境が、がん遺伝子や細胞に指示を出していると考えた。
- ・周囲の細胞との関係性が悪くなるとがん化し、よくなると正常化する。

- ・がん細胞を正常化できるのも自分だという観点です。
  - ・環境とは何なのか？食べ物の化学物質？仕事による過労？人間関係性のストレス？  
喫煙・飲酒？化学製品の経皮毒？環境汚染？
- \*北海道大学大学院医学研究科でも共同研究されています。

### ◆がんを正常細胞に戻すために必要な共通項目◆

からだを健康に保つあり方は、食事や消化機能、胃腸の活動が基本であり心の在り方も心の方向性を持つことも大切です。

- ・心とからだ癒しを感じる。
- ・何がしたいかでなく、何をしたら癒やされるか。
- ・誰といたら癒されるのか。
- ・身の置き場は、どこが一番癒されるのか。

それには、体調がよくなることが大切です。健康的にいいことをする時楽しいか、幸せか、笑顔になるか、心地よいか、快適か、嬉しいか、癒やされるかを感じられるようにすることです。日常生活の質（QOL）や活動性（ADL）を保ちながら、自分の時間を過ごすことも大切です。